

## 学校だより

# 翔 空

No. 48 平成25年 3月 11日 (月)  
郡山市立喜久田中学校長 大堀 昌弘

「翔空」の由来 〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚なこの学舎から、希望に燃え限りない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

### [入試問題を見て思う]

今回、本校からはちょうど30名の生徒が県立Ⅱ期の入試に挑戦しました。過日の新聞を読み、5教科の問題がどのように評されているか掲載します。(3月8日付け福島民報等を参照)

○国語：基礎的な知識から表現力・応用力まで幅広く試される内容であった。問題量・難易度・出題形式等例年通り。

○社会：三分野から二題ずつ出題された。他分野との融合問題や論述形式の問題もあり、総合的な力が試された。

○数学：例年通りの形式で、各領域から三年間の学習内容が満遍なく出題された。思考・判断・表現の各能力を高め、段階的に問題を解決する力を養うことが必要である。

○理科：今年も小問集合一題と、四領域から各二題ずつ出題された。基本的事項を問うものが多かった。

○英語：基本的な内容の定着をみる問題を中心に、バランスよく出題された。日々の授業の大切さを痛感させられる内容である。

毎年話題となる出題傾向ですが、私の専門の英語においては、年々表現力を試す問題が多くなると同時に、図やグラフを読み取りながら問題を解くというような総合的な読解力を試す問題作成の傾向にあります。また、いかに授業を大事にし、真剣に取り組んできたかが問われています。

1・2年の皆さんは今から、これらを意識して授業に取り組みましょう。



## 震災からの復興・放射能との共生 ～今日で震災から2年となりました～

今日は3月11日。震災からすでに2年が経過しましたが、あの震災後の1ヶ月間の出来事が走馬灯のように今でも思い起こされます。しかし、福島に住む私たちは、いまだに放射線被害の真只中にあると言っても過言ではありません。

手元に2年前の4月初旬の新聞記事等があります。いくつか記事を拾いながら紹介しましょう。(なお、記事の内容によっては、今では訂正されているものもありますのでご注意ください。)

3月11日午後2時46分に起きた大地震。マグニチュード9.0、震度7強とされ、スマトラ沖の大地震(マグニチュード9.1)に次ぐものと言われています。〔1900年以降の地震では4番目〕いわゆる「激甚災害」に指定され、「国際的災害支援」(民・官両方に対して130近くの国及び地域から)を受けながら復興を目指しています。地震からほぼ1ヶ月が経ち、津波、余震、原発事故等の影響もあり、特に福島県は三重の被害を受け、未だ行方不明者の安否を確認することさえできない地域もあります。

今回、テレビ・新聞等のさまざまな報道によると、

(※平成23年4月7日現在)

- ・原発事故は、チェルノブイリ事故ほどではないが、スリーマイルでの事故より数段重い。
- ・(推定)死亡・行方不明者をあわせると2万7千人を超えるであろう。
- ・全国各地から多くの善意の義援金が寄せられている。
- ・被災者において、「仕事がない」「内定を取り消された」などの悲嘆の声が多く聞かれる。
- ・「地元の復興に燃える新入役場職員」(岩手県)
- ・「見知らぬ土地への転校を余儀なくされた子どもたち」(福島県)
- ・ガソリン不足で一時159円(レギュラー)の最高値を出す。
- ・被災地の松島マリニピアでペンギンの赤ちゃん誕生。4月20日には、水族館を再開するとの嬉しいニュース。

今思い起こせば、身震いするほど悲惨な状況の中でもほのぼのとした嬉しいニュースもありました。しかし、いまだに自分の故郷に帰れない多くの被災者が存在しています。私たちの郡山市は、全国に先駆けて「学校の校庭の表土除去」を行い、震災の年の夏以降(表土除去以降)各校にも、多少なりとも生徒の元気な声が聞こえるようになりました。ただ、各地区ごとの除染活動にもかかわらず、いまだ放射線量の高い地区が残っています。本校も、3月末(場合によっては4月末日までに)、本森林・芝生・屋上などの最終除染が行われる予定です。今後とも、生徒の健康管理の徹底を図りたいと思います。

卒業式までわずか2日となりました。13日(水)には感動の卒業式を迎えるべく最終準備段階に入りました。61名の卒業生(3月1日付けで3年1組に転入生が入りました)を心から送り出したいと思います。